

# 2014 年度決算説明会サマリー (2015 年 5 月 12 日開催)

## (1) 2014 年度 決算概要

①売上高	3,840 億円	前年同期比	+ 72 億円	→ 数量増+66 億円・販売価格差+6 億円
②営業利益	240 億円	前年同期比	+ 28 億円	
＜要因別内訳＞				
		数量影響	+ 59	→ 電子・先端プロダクツ製品の販売増
		円安メリット	+ 14	→ 価格 + 81 > コストアップ▲ 67
		原燃料価格変動	▲ 18	→ コスト+ 57 価格 ▲ 75
		SM 定修負担増他	▲ 9	
		先行投資負担	▲ 18	→ 海外展開加速・研究開発他

需要回復に伴う電子・先端プロダクツ製品の出荷増や円安の進行、下期の原燃料価格急落等のプラス要因が、インフラ関連製品の回復遅れや、プラント定修、海外展開及び研究開発強化などの先行投資による負担増等のマイナス要因を上回り、増収増益。

## (2) 2015 年度 業績予想

①売上高	3,900 億円	前年同期比	+ 60 億円	→ 数量増+218 億円・販売価格差▲158 億円
②営業利益	300 億円	前年同期比	+ 60 億円	
＜要因別内訳＞				
		数量要因	+ 42	→ 高付加価値製品販売増他
		円安メリット	+ 10	→ 価格 + 56 > コストアップ▲ 46
		原燃料価格変動	+ 50	→ 価格 ▲ 214 < コスト+ 264
		コスト増	▲ 24	→ 賃金改定による労務費他のコスト増等
		先行投資負担	▲ 17	→ 海外展開加速・研究開発他

電子・先端製品の好調継続に加え、円安や原燃料安、電気料金値下げを見込む一方で、海外展開の加速継続、研究開発の強化等の積極・先行投資によるコスト負担増があるが増収増益を確保、過去最高の営業利益を目指す。

## (3) 経営計画「DENKA100」

### ①「生産体制の最適化」

クロロプレナム : DuPont 社の事業買収に向けた契約締結  
高信頼性放熱プレート : 中国(大連)新工場建設  
電子部品搬送用部材 : ベトナム(ハノイ)新工場建設  
中東・アフリカ地域の営業拠点設立 : ドバイ首長国に現地法人

### ②「成長分野への資源集中」「次世代製品開発」

環境・エネルギー      アセチレンブラック:LiB 用超高純度品製造設備稼働(千葉工場・2015 年 4 月)  
インフラ                特殊混和材:建材メーカーPOSCO 社(マレーシア)を完全子会社化  
健康                      ・迅速診断キット技術の水平展開(エボラ・ヒポリ・テング等…)  
                              ・生活習慣病関連製品の拡大(sd-LDL 等 心・腎・肝疾患分野製品…)  
                              ・各種ワクチン製造の新たなプラットフォームの開発(がん治療ウイルス製剤等…)

### ③「株主還元方針及び成長に向けた投資財源」

- ・2014 年度は当初予定の記念配も含めた配当を 12 円から 12.5 円へ増配。
- ・あわせて総還元性向 50%に見合う自社株買いを実施する。

## (4) 数値目標と新成長戦略

「生産体制の最適化」がほぼ整い、今後は「成長ドライバーへの資源集中と次世代製品開発」にリソースを集中するとともに「コストの総点検」を徹底。最終目標の「営業利益 600 億円」へは、先ずリーマンショック前の過去最高営業利益を今年達成した上で、過去 2 年の具体的施策の効果を確実に上乘せし、現在進行中の M&A や先端技術の導入などの戦略投資、新製品・次世代製品の取組みを更に積極化させ、最終目標数値をより現実的なものとしてゆく。

## (5) 次の 100 年に向けて

創立百周年を迎え、次の 100 年に向けた新たな一歩を踏み出すにあたり、国内外での認知向上を図るとともに、新しい「デンカ」に生まれ変わる「決意」を示すため、商号を変更し、コーポレートロゴマークとコーポレートスローガンを制定。

商号：デンカ株式会社 (Denka Company Limited) (2015 年 10 月 1 日～)

ロゴマーク：

スローガン：できるをつくる。  
Possibility of Chemistry.

## (6) 質疑応答

### 1 今期営業利益予想 300 億円(前期比+60 億円)の考え方

原燃料価格や電気料金の値下がりにより、それらに応じた売価改定を差し引いても、70 億円程のプラスとなると考えており、少なくとも半分の 35 億円は確実に上乗せできる。さらに、世界経済の緩やかな回復が続けば、達成できる目標。ボラティリティが高い電子材料は、多様な分野の製品があるので、すべてが悪くなるとは考えていない。

### 2 エラストマー・機能樹脂の今期業績予想の内容

プラントが非定修年であることから、スチレンモノマーの販売数量が増加。コスト面では原燃料価格安のほか、購入電力の負担減少。なお電気料金は 2012 年度と比べ全社トータルで 30 億円程度増加した。またアセチレンブラックは主にシンガポールで生産の、高圧ケーブル用途が伸びる。ほかに AB 全体の 15% 全体を占める LiB 用途は、新たに千葉の専用プラントで生産を開始し、現在顧客の認定作業中。

### 3 クロロプレンゴム(CR)事業買収成立後の戦略

現在の青海工場単一の供給体制が限界にきているのに加え、現状で 1,000 ドル/TN 程度のブタジエン価格では、アセチレン法はコスト競争で勝てない。このような事態を想定し、以前から対応を検討していた。今回の基本合意により、CR 事業継続のための道筋ができたと考える。地理的立地による供給や、原燃料面での相互補完を期待。買収が成立した場合、業績に対して大きな影響はないが、特殊ゴムに見合った相応の利益率を確保できる。

### 4 電子材料の足元の状況と今期予想

四半期毎に業績が上向いてきた 2014 年度の状況が足元でも続いており、モバイル端末や高機能テレビ等で需要好調。夏頃までの受注がほぼ確定しており、比較的先行きは見通しやすく、予想数値はかたい。

### 5 「健康」分野の現状と今後

本格的な医薬分野とはいえないが、現在、そして将来のニーズに応えるリソースやプラットフォームは整っているため、これら以外にも複数の案件がある。経営計画の最終目標達成ための柱として、引き続き注力。脂質マーカーの sd-LDL は、当初計画より 1 年程遅れているが、今夏から秋にかけて FDA に申請し、今年度中の発売を目指す。さらにそれを足がかりに、ヨーロッパや日本でも展開したい。

### 6 高分子ヒアルロン酸製剤の予想出荷数量が前年比で減少する理由

以前から計画していた自動化等生産性向上工事のため、プラントを 4~5 ヶ月停止することから、出荷数量が一時的に減少する。

### 7 デンカポリマーの損益改善

過去の傾向から、原燃料上昇局面では値上げにタイムラグが出てくる。しかし反対に下落の場合は、コストに応じた値下げにはなりにくいことから、今年度はスプレッドが拡大し利益が出る。今後はコストダウンを進めると同時に、原料高騰下でも採算がとれるような、耐油性・耐熱性等の高機能品の開発・販売に注力。

以上